

PET-CT 検査を受けられる方へ（注意事項）

正しく検査するためにお守りいただきたい重要な事項を記載しています。他検査に比べて注意していただくことが大変多いので、よくお読みになり、ご不明な点はお問い合わせください。

食事について

- ・検査予約時間の **6 時間前から絶食**です。ガム（シュガーレスも含む）、アメも禁止です。
- ・水は積極的に飲んでください。ただし **水以外の飲料は禁止**です（スポーツ飲料など）。
- ・糖分や食事、水以外の飲料は検査に影響を及ぼし、正しい診断ができなくなります。

6 時間前から絶食
ガム、アメも禁止



内服薬について

- ・糖尿病薬（血糖降下剤）やインスリンは **絶食している間は中止**してください（別紙参照）。
- ・糖尿病薬以外の **常用薬はいつも通り内服**してください。

その他の注意事項

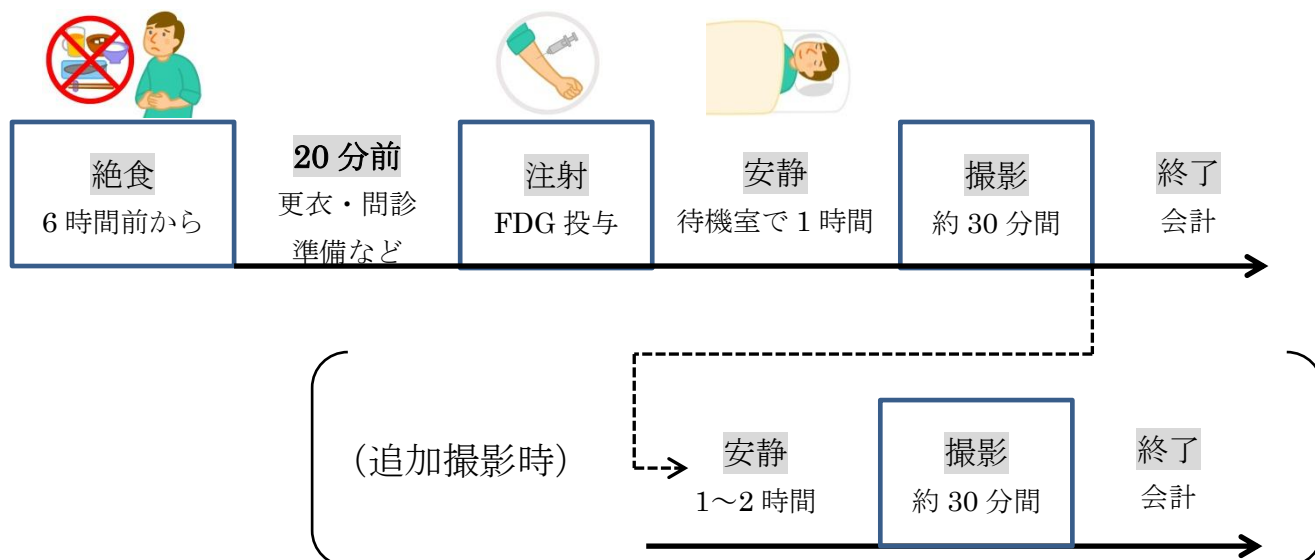
- ・検査前日から検査終了まで **運動は控えて**、できる限り安静にお過ごしください。
- ・**妊娠中の方は**検査できません。可能性のある方はお申し出ください。
- ・**授乳中の方は**、検査後の注意事項に従ってください。
- ・**糖尿病の方は別紙の注意事項**に従ってください。
- ・**オムツ・尿パッド使用中の方は替えのご準備**をお願いいたします（場合により検査前に新しい物に交換していただくことがあります）。
- ・PET-CT 検査当日は、診察や他の検査を原則行っていません。緊急性がある場合はこの限りではありません。

検査当日

- ・検査着へ更衣をしていただきます。更衣しやすい服装でお越しください。
- ・来院時には公共交通機関を使用するなどし、走ったり、長時間自転車をこいだりしないように注意してください。
- ・同日に採血・採尿がある場合は、必ず検査前に済ませてください。検査後はできません。
- ・お一人での移動、トイレなどが困難な場合は、検査終了までご家族（1名）の付き添いをお願いすることがあります。
- ・ご負担金額は、3割負担の方で約30,000円です。（2割負担:約20,000円）（1割負担:約10,000円）
- ・1度目の撮影終了後に、必要に応じて、**2度目の追加撮影が発生する場合があります。**
この追加撮影は、患者さん自身の症例や状態で変更になり、1度目に撮影した画像を確認した後に、追加撮影の有無が決定します。
このため、追加撮影をするかの案内は、1度目の撮影が終了した時になります。

《当日の流れ》

- ・予約時間の **20分前**までに、地下放射線受付までお越しください。当日記入の問診や更衣などの準備をしていただきます。 **※時間を厳守**してください。検査前準備に時間を要します。検査薬の性質上、**遅れると検査できない**ことがあります。
- ・予約時間に注射を行い、その後1時間程度休んでいただいた後に、約30分間の1度目の撮影を行います。
- ・1度目の撮影終了時に追加撮影が必要になる場合は、そこから更に1~2時間程度休んでいただき、その後に30分程度の2度目の撮影を行います。
- ・最大で4時間程度となります。



検査後の注意事項

- ・検査終了後も当日は身体から多少の放射線が出ています。その為当日は乳幼児や妊産婦との長時間の接触はできるだけお控えください。
- ・授乳中の場合は検査当日の授乳はお控えください。
- ・水分をなるべく多く取ることをお勧めいたします。余分な検査薬の排泄が早くなります。
- ・検査翌日以降は普段通りにお過ごしください。検査薬は体内から消失し、影響が残ることはありません。

検査のキャンセルについて

- ・この検査に使うお薬は有効期限が非常に短く、あなたの検査のためだけに注文するため、他の方には使用できません。
- ・無断でキャンセルされた場合は、薬の実費（約 49,000 円）を負担していただきます。
- ・予約時間（検査 20 分前）に遅れた場合も当日キャンセルと同様に薬の実費を負担いただくことがあります（時間に遅れると薬の有効期限を過ぎることがあるためです）。
- ・検査前日（土・日曜、祝日明けの場合は、それぞれ金曜、祝前日）までに、受付から受診確認のお電話をさせていただきます。キャンセルの場合はその際にお申し出ください（それ以降はキャンセルを承れない場合があります）。

神戸市立西神戸医療センター 地下放射線受付 (078) 997-2200 (代表)

PET-CT 検査 説明書

PET-CT（ポジトロン断層撮影）検査について

- ・この検査は、放射性同位元素（F-18）で標識されたフルオロデオキシグルコース（FDG）という薬剤を静脈注射した後に撮影を行い、体内の糖代謝機能をみることにより、主として腫瘍の診断をする検査です。

検査の安全性について

- ・当院で使用する ^{18}F -FDG は製薬会社で検査当日に製造されたものを使用しています。この薬剤による副作用の心配はほとんどありません。現在までに重篤な副作用（ショック、死亡など）の報告はありません。
- ・PET-CT 検査 1 回の被ばく線量は胃透視検査の約 1~2 回分です。この線量では放射線障害が起こる恐れはありません（ただし妊娠中の方は検査いたしません）。また被ばくのリスクよりも検査から得られる情報の方が遙かに上回る場合のみ検査を行います。

PET-CT 検査の特徴、限界について

<PET-CT 検査を受けるにあたり次の点をご理解ください>

- ・PET-CT 検査は万能ではありません。以下のような特徴があります。
- ・FDG は糖代謝の盛んな脳、心臓、肝臓に強く集積します。また尿から排泄されますので、腎臓や尿管、膀胱にも集積します。胃や大腸には正常でも集積がみられる場合があります。そのためこれらの臓器の診断は難しくなります。
- ・FDG は、がんだけでなく肺炎などの炎症性疾患や甲状腺腫、大腸腺腫などの良性疾患にも集積します。
- ・PET-CT 検査は数 mm 単位のがん、糖代謝の低いがん（肝臓がん、腎臓がんなど）、細胞密度の低いがん（一部の肺癌、乳がん、胃がんなど）は診断できないことがあります。
- ・PET-CT 検査で有用性の高いがんとして、頭頸部がん、肺がん、乳がん、膵臓がん、大腸がん、悪性リンパ腫、悪性黒色腫などがあげられます。
- ・PET-CT 検査で検出が難しいがんとしては、膀胱がん、腎臓がん、尿管がん、前立腺がん、肝臓がん、消化器粘膜内がんなどがあげられます。
- ・血糖値が 150mg/dL を超えると腫瘍への FDG 集積が低下し、検出しにくくなります。検査直前に血糖の簡易測定を行います。この時点で血糖値が 200mg/dL 以上の場合には診断能力が低下するため、検査を中止することがあります。

検査データの医学的活用について

- ・当院は、医療の発展のために研究・発表を行っています。検査により得られたデータは、今後の医学発展のため利用させていただくことがあります。その際には個人情報保護に十分注意し、個人が特定されないことがないようにいたします。

糖尿病治療を受けられている方へ

検査への影響

- ・検査中に使用する薬（FDG）は、ブドウ糖に類似した薬剤であるため、血糖値などの体内の糖分の状態によって影響を受けることがあります。そのため糖尿病などのために血糖値の高い状態でPET-CT検査を施行すると、病変の検出が難しくなると言われています。ただし、そのような状態でもがん（悪性腫瘍）などの病変への薬の集積が消えることはなく、診断への影響については未だ明らかになっていません。

血糖値

- ・これまで分かっている限りでは、糖尿病であっても検査時の血糖値が200mg/dL以下であれば、検査に大きな支障はないと考えられています。
- ・血糖値200mg/dL以上となるような高血糖では、病変が見つかりにくくなる可能性があります。検査を延期して糖尿病の治療を十分行ってから検査をした方がよい場合もあります。ただし検査を受けられる方の状況にもよりますので、検査当日の血糖値が200mg/dL以上であった場合にはあらためてご説明いたします。

検査前の注意事項

- ・検査予約 **6時間前**から絶食してください。
- ・糖尿病の内服薬（血糖降下剤）やインスリンの注射は、検査6時間前から検査終了まで禁止です。